

# 農林中央金庫の目指す姿

ホーム > サステナビリティ > サステナブル経営 > 農林中央金庫の目指す姿

農林中央金庫は、持続可能な環境や社会のために未来に向けて社会に提供しうる価値=パーパス（私たちの存在意義）を定めています。そして、中長期的に向き合う課題として「パーパス実現のための重要課題」と、2030年に向けて目指す姿として「中期ビジョン」を定めています。また、日々の事業活動の土台を成すものとして、役職員の「共有価値観」を整理しています。

## 理念

### Purpose

持続可能な環境や社会のために  
未来に向けてどのような貢献をしていくか

## Materiality

中長期的に向き合っていく環境・社会課題

## 事業活動

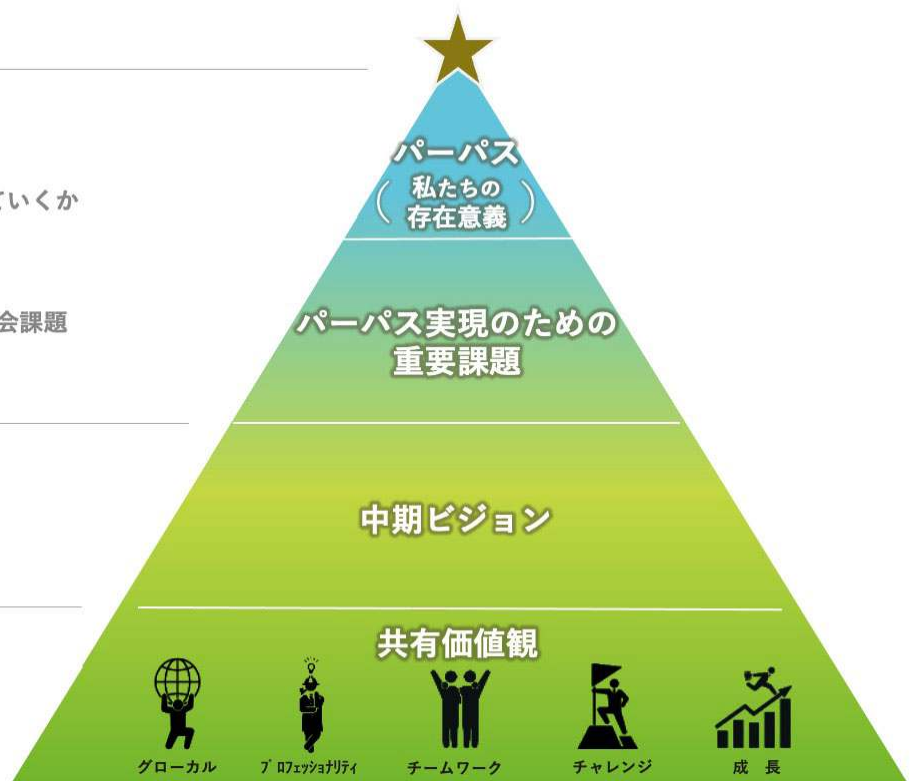
### Vision/Strategy

重要課題の解決に向けて、  
私たちが中期的に目指す姿

## 価値観

### Shared Value

目指す姿実現に向け、私たちが  
日々業務を実践するための土台



ステークホルダー：JA・JF・JForestなどの会員/会員の組合員(農林水産業に従事するみなさま)/地域社会のみなさま//農林水産関連企業をはじめとする預貯金や貸出のお取引先/投資家のみなさま/ビジネスパートナー/行政/農林中央金庫グループ職員

## Purpose

### パーパス（私たちの存在意義）

#### 持てるすべてを「いのち」に向けて。

～ステークホルダーのみなさまとともに、農林水産業をはぐくみ、  
豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます～

## Materiality

### パーパス実現のための重要課題

脱炭素社会の実現

自然と共生する社会の実現

農林水産業の“稼ぐ力”の強化

強靱な食料システムの実現

国内外での“豊かな”暮らしの実現

## Vision/Strategy

### 中期ビジョン

#### 「未来を見据え、変化に挑む」

地球環境・社会・経済へのインパクト創出

農林水産業・地域の持続的な発展

デジタルとリアルの最適融合による組合員・利用者への価値創造

会員への安定的な収益・機能還元の実現

変化に挑戦し続ける柔軟で強靱な組織の実現

## パーパス（私たちの存在意義）の策定

中長期的な視点に立って当金庫のあるべき姿、世の中に提供できる価値や役割を再定義し、その実現に向けた具体的な目標を置いて実践していくことの重要性を踏まえ、当金庫は2050年に向けて社会に提供しうる価値＝パーパス（私たちの存在意義）を定めました。

「パーパス」の策定にあたっては、2020年に、理事長以下全役員出席によるワークショップを月1回のペースで開催しました。2050年の地球環境や社会の変化（メガトレンド）を予測したうえで、バックキャストिंगの思考に立ち、以下のプロセスで議論を行いました。議論の内容は、経営管理委員、当金庫の職員に共有し、意見交換やアンケートを通じて成案化に反映しました。

### 議論のプロセス

1. 環境・社会の中長期的変化（メガトレンド）を踏まえた、2050年の「未来感シナリオ」を共有
2. 「未来感シナリオ」が農林中央金庫の基盤やビジネス（農林水産業、投融资）に与える影響を予測
3. 2.に対し、当金庫が世の中に提供できる価値、求められる役割は何か＝「パーパス」を議論
4. 「パーパス」を踏まえ、2030年に達成すべきゴールを議論
5. 経営計画に反映（「農林中央金庫の目指す姿」の再整理）



役員ワークショップでのグループディスカッションの様子

## サステナブル経営の歩み

当金庫は2019年度よりサステナブル経営を開始し、態勢整備や各種イニシアティブへの加盟を行いながら取組みを進めてきました。今後もステークホルダーのみなさまとともに取組みを進めてまいります。

### 2019年度～2023年度中期経営計画

	主な取組み	加盟・賛同イニシアティブ
2019年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サステナブル協議会設置</li> <li>■ 環境方針・人権方針制定</li> <li>■ 投融資における環境・社会への配慮にかかる取組方針制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)</li> <li>■ 気候変動イニシアティブ</li> </ul>
2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ESGローン創設</li> <li>■ 環境・社会リスク管理体制構築</li> </ul>	
2021年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ パーパス制定</li> <li>■ チーフ・ダイバーシティ・オフィサー配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ UNEP FI</li> <li>■ 責任銀行原則 (PRB)</li> <li>■ 金融向け炭素会計パートナーシップ (PCAF)</li> </ul>
2022年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ チーフ・サステナビリティ・オフィサー配置</li> <li>■ サステナビリティ・アドバイザー・ボード設置</li> <li>■ 人権影響評価 (人権デューデリジェンス) 実施</li> <li>■ TNFDタスクフォースメンバー就任</li> <li>■ 2050年ネットゼロへのコミットメント公表</li> <li>■ ポートフォリオGHG排出量削減目標公表 &lt; 融資 (電力)、投資 (株式・社債) &gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Climate Action 100+</li> <li>■ AIGCC加盟</li> <li>■ インパクト志向金融宣言署名</li> <li>■ NZBA</li> <li>■ GFANZ</li> <li>■ 経団連2030年30%へのチャレンジ</li> </ul>
2023年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サステナブルビジネス推進体制強化</li> <li>■ Diversity &amp; Inclusion Book発行</li> <li>■ Climate &amp; Natureレポート2024発行</li> <li>■ ポートフォリオGHG排出量削減目標追加 &lt; 融資 (石油・ガス、石炭、鉄鋼) &gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD)</li> <li>■ 日本気候リーダーズ・パートナーシップ (JCLP)</li> <li>■ 生物多様性のための30by30アライアンス</li> <li>■ 金融向け生物多様性会計パートナーシップ (PBAF)</li> <li>■ 企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)</li> </ul>

### 2024年度～2030年度 中期ビジョン

地球環境・社会・経済へのインパクト創出

> (参考) イニシアティブへの参画